

会派先進地視察報告書

◇ 11月15日（火）「能美市」
高齢者福祉の取り組みについて

◇ 11月16日（水）「上越市」
上越市創造行政研究所について

視察報告書

日 時	平成 28 年 11 月 15 日（火）午後 1 時 30 分から午後 3 時 30 分まで
視 察 先	石川県能美市
視 察 項 目	高齢者福祉の取り組みについて
視 察 者	市民クラブ（夏目 豊、荻田信孝、島崎昭三、古俣泰浩、藤井貴範、林 正則）
視 察 内 容	<p><高齢者ちょこっとお助け事業について></p> <p>○事業内容：75 歳以上高齢者等の日常生活上のちょっとした困りごとをワンコイン（100 円）で支援する。作業はシルバー人材センターに登録した「お助け隊」が実施する。</p> <p>○対象者：75 歳以上高齢者世帯、障がい者世帯（身体障害者手帳 1 級、2 級所持者）</p> <p>○事業開始：平成 26 年 1 月</p> <p>○利用回数：1 世帯当たり年間 12 回</p> <p>○利用料金：1 回 100 円</p> <p>○作業内容（10 種類）：室内の掃除機かけ、雑巾がけ、1 階の窓拭き、浴槽清掃、照明（電球）交換と照明器具の清掃、玄関掃除、トイレ掃除、小さな家具の移動、草むしり、小さな木の枝落とし※1 作業を 1 人のお助け隊が 1 時間以内でできる簡易な作業</p> <p><元気高齢者報奨事業について></p> <p>○事業内容：要介護（要支援）認定を受けることなく、近年においても長期入院をしたことがない高齢者に対し、日ごろの健康維持の努力に報い、これからも健康でいきいきとした「元気高齢者」で過ごしていただくことを励行するために祝品（1 万円分の商品券）を贈呈する。</p> <p>○対象者：85 歳の元気高齢者で、次の全てに該当する方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要介護（要支援）認定を受けたことがない方 ・過去 1 年間のうち、10 日間以上の連続入院をしていない方 ・介護保険料を 1 か年度分以上、能美市に納付している方 ・介護保険料を過年度分までは完納している方 <p><メモリーケアネットワーク能美事業について></p> <p>○事業概要：住みなれた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、医療・介護・福祉・保健を一体的に提供できる体制づくりに寄与することを目的とし、この達成に関する調査・研修・会議等を行うもの。</p>
所 感	<p>高齢者ちょこっとお助け事業については、料金が 100 円と安価であることや高齢者の見守りにも役立ち、効果を上げていると伺い、新たな高齢者サービスの手法であると感じた。</p> <p>現在、平均寿命が伸びている中で、健康寿命を引き上げることも課題の一つである。そのためには、これが有効であるとの事業は限定できなく、健康体操やあらゆる取り組みの複合が、また、個々人にあった施策が必要と考えられることから、こうした能美市の事業も施策の一つであると感じた。</p> <p>本市においても社会福祉協議会の各種事業や地域のサロン等でいろいろなお助け事業等が行われているが、このようなサービスをもっと PR し、高齢者がより安心して暮らせる環境整備を推進していくことが必要であると感じた。</p>

日 時	平成 28 年 11 月 16 日（水）午後 1 時から午後 3 時まで
視 察 先	新潟県上越市
視 察 項 目	上越市創造行政研究所について
視 察 者	市民クラブ（夏目 豊、荻田信孝、島崎昭三、古俣泰浩、藤井貴範、林 正則）
視 察 内 容	<p>平成 12 年 4 月に市長が、官僚時代の経験で、国の機関と同じように、政策検討をする上で組織内シンクタンクが必要と思い設置に至った。現在の所長は、非常勤職員として高崎大学の教授に月 2 回の来所を依頼している。電話やメール等で遠隔で指示をもらうこともある。自治体シンクタンクは全国でも約 30 か所の市町にあり、愛知県でも安城市、高浜市が設置している。</p> <p>地方分権社会の到来、地球規模での環境問題の深刻化、少子化・高齢化や国際化など、地方都市を取り巻く社会経済環境は急速に変化しており、地方行政においては、従来にも増して自治体経営感覚を養い自らの道は自らで切り拓くことが不可欠になっていることから、上越市においても、地方の本格的な自己決定・自己責任時代に対応する新たな行政システムを確立するため、行政の政策立案・提言能力の更なる向上を目指し、市独自のシンクタンクを設立した。</p> <p>上越市は、市町村合併の結果、市街地と山間地が存在しており、都市部が、山間部が、という見識ではなく、広く市全体を全庁的に考える必要がある。それを検討する組織として事業に取り組んでいる。</p> <p>仕事の核は調査研究で、コンサルティング、研究交流、情報発信を付加して活動している。特定の分野にこだわらず、市の持つテーマを取り上げて、調査研究を実施しており、ニュースレターを、年 3 回ほど発行し、職員、市民と情報共有している。</p>
所 感	<p>上越市創造行政研究所の特色は、市の組織でありながら客観性を担保するため、外部有識者（大学教授等）を所長に配置し、調査研究機能を中核に、事業支援、研究交流、情報発信等を通じ、人材育成や政策創造を目指している点にあると感じた。</p> <p>通常業務を優先せざるを得ない自治体の現状を踏まえるとその存在は貴重であると感じた。</p> <p>このような、部局を横断した中長期的・広域的な調査研究の手法や客観的な視点を担保する外部有識者の活用等は参考になった。</p> <p>一自治体での取り組みとしては限度があると感じたため、例えば知多半島の 5 市 5 町の自治体間の共同設置による広域行政の取り組みも考えられる。</p> <p>我々議員個々が自治体経営感覚を携え、政策立案・提言能力のさらなる向上を目指す上でも有意義な視察となった。</p>